

# 経 済 民 生 常 任 委 員 会 記 録

平成 30 年 12 月 13 日(木)午後3時 47 分～午後4時 06 分(9階 904 会議室)

## ○出席委員(9名)

委 員 長	石原洋三郎
副委員長	誉田 憲孝
委 員	佐々木 優
委 員	後藤 善次
委 員	斎藤 正臣
委 員	黒沢 仁
委 員	佐久間行夫
委 員	山岸 清
委 員	渡辺 敏彦

## ○欠席委員(なし)

## ○市長等部局出席者(なし)

## ○議 題

「地域密着型プロスポーツチームとの連携による地域の活性化に関する調査」

- (1) 行政視察意見開陳のまとめについて
- (2) 今後の調査の進め方について

---

午後 3 時 47 分 開 議

(石原洋三郎委員長) ただいまから経済民生常任委員会を開会いたします。

議題は、お手元に配付の印刷物のとおりです。

地域密着型プロスポーツチームとの連携による地域の活性化に関する調査を議題といたします。

初めに、行政視察意見開陳のまとめについてを議題といたします。

前回、11月12日の委員会で各委員の皆様より行政視察の意見開陳をいただきましたが、今回はそのまとめを行っていきたいと思います。

資料1の行政視察議事録をごらんください。こちらは、11月6日から8日まで実施した行政視察において委員の皆さんの質疑した内容を中心にまとめてあります。

まずは、ここで5分ほど時間をおとりしたいと思いますので、各自資料1の内容確認をお願いしたいと思います。

**【資料黙読】**

(石原洋三郎委員長) 資料1について何かございますでしょうか。

**【「なし」と呼ぶ者あり】**

(石原洋三郎委員長) こちらの資料で改めて行政視察の際のやりとりなどを各自思い出していただければと思いますが、特に何もなければ、次に資料2の行政視察意見開陳整理表をごらんください。

こちらは、11月12日の委員会で皆様よりいただいたご意見をそれぞれの自治体ごとに分けて記載しております。特に重要と思われる箇所には下線表示しており、さらに表の一番右には皆様からいただいた意見をキーワードとして整理させていただいております。キーワード中の太字箇所は、ほかの委員のキーワードでも登場するもので、重複していることを示しております。

こちらの資料についても、まずは5分ほどお時間をおとりしたいと思いますので、各自内容の確認をお願いいたします。

**【資料黙読】**

(石原洋三郎委員長) それでは、こちらの資料について、表の一番右のキーワードの欄を中心に見ていきますが、皆様の意見を、それぞれ強弱はあるかと思いますが、キーワード化して、ある程度同じような文言で集約していくと、特に意見として多かったのは、経済効果など、支援することで得られる効果を市民にPRし、理解を得る必要があるといった内容や、市民、各団体、行政が連携してクラブを応援する体制を構築することが必要といった内容、ホームタウン自治体を福島市が中心となり拡大すべきといった内容が多かったように感じております。

さらに、そのほかのキーワードを見てまいりますと、クラブとの連携が子供たちの健全育成をはじめ地域にさまざまな活性化効果をもたらすことや、スポーツにとどまらず、さまざまな分野でクラブを活用し、連携できるということについても、改めて理解が深まったのではないかと考えており、これらのことから、一番の収穫は、クラブが市民に近い存在となることや市民の応援する機運を高める取り組みがいかに重要であるかということをご認識いただけたことではないかと感じております。

最終的に当委員会としては、これらキーワード整理の結果を受けて、資料3に記載のように、今回の行政視察の成果を6点でまとめてみてはどうかと考えております。資料3のほうをごらんください。

まず、(1)、クラブが市民から認知、応援される存在になることの重要性についてであります。今回行政視察を実施した自治体に根づいているプロスポーツチームは、J1やJ2で優勝争いを繰り広げる人気を兼ね備えた強豪チームでありましたが、どのクラブも初めから強く、市民から応援される存在ではありませんでした。

地道な地域貢献活動など、市民に近い存在となれるよう行政とともに継続的に取り組んできた成果が実を結んでいるということで、関連するようなキーワードも皆様から多く挙げられていましたが、

クラブが市民から認知、応援される存在になることがチーム強化や集客、地域資源の価値の向上を図る上でも、いかに重要な要素であるかを認識できたと感じております。

続いて、(2)、クラブの存在、活動がもたらすさまざまな地域活性化効果についてであります。今回行政視察を実施した自治体では、クラブが独自に展開している地域貢献活動やクラブの存在価値に着目し、連携を図ることでさまざまな地域活性化効果を得ておりました。

具体的には先ほどの資料2の表にもあったように、子供への出前サッカー教室や少年サッカー大会、町なかでのパブリックビューイングのさまざまなことを実施いたしまして、クラブの存在と活動がさまざまな活性化効果を地域にもたらしているということが改めて視察で再認識できたものと感じております。

次のページになりますが、次に(3)、クラブを支える地元ボランティア団体の重要性についてであります。こちら委員の資料2の意見開陳のキーワードにもありましたが、今回行政視察を実施した町田市では、多摩国体の際に市で募集した市民ボランティアをまちだサポーターズとして、ゼルビアの試合をはじめ、さまざまな市のイベント運営を支える団体として活用しておりました。

本市においても今後東京オリンピックのソフトボールの試合が行われることから、競技開催により高まったボランティア機運の受け皿の一つとして、福島ユナイテッドの存在が重要な位置を占めると感じております。

ちなみに、参考までに福島ユナイテッドで組織している試合運営ボランティアスタッフについてですが、福島ユナイテッドの鈴木勇人参考人から説明を受けた際に、大学生や高校生を中心に年間延べ約500名規模でホームゲームを支えていただいているという説明がございましたので、ここで改めて皆様と情報共有をさせていただければと思います。

そして次に、(4)、クラブや地域、行政が密接な連絡体制を構築していく重要性についてであります。今回行政視察を実施した自治体では、ホームタウン推進の担当部署が行政側の窓口となり、クラブをはじめ地域団体も巻き込み、綿密な連絡体制を構築しておりました。

資料2の皆様の意見開陳でも挙げられておりましたが、川崎市では商工会や商店街、町内会連合会なども巻き込み、委員会を組織して全市を挙げて応援する体制を構築していたことや、週に1回は行政担当者とクラブ関係者が打ち合わせを行っていること。町田市ではクラブライセンスの課題解決に向けて、クラブとともに行政も加わり、Jリーグとの打ち合わせを綿密に実施。また、日頃からどのような連携協力ができるか、担当窓口が全庁的なパイプ役となり調整をしておりましたこと。松本市でも特に連携イベントの前後ではほぼ毎日打ち合わせを行うなど、クラブとの十分な連絡調整を行っており、クラブと地域や行政の密接な連絡体制構築の重要性を認識できたと考えております。

次に、3ページですが、(5)、クラブと行政が連携することについて、市民の理解を得ていくことの重要性についてであります。今回行政視察を実施した自治体では、行政がなぜプロスポーツチームを支援するのか、その効果や価値を行政でもしっかりと捉え、事あるごとに市民に説明、PRしな

がら理解を得る取り組みを行うことで、行政がクラブを支援しやすい環境を整えておりました。

先ほどの資料2でも多くの委員の皆さんから市民の理解を得ることの必要性について意見をいただいております。

川崎市ではプロスポーツチームがこれまで根づかなかった経過を踏まえて、クラブが市と密接に連携して地域貢献活動に取り組んでいることを市民に絶えずアピールしていることの説明や、町田市でも市民に対して、プロスポーツチームを支援することで得られる効果をしっかりと説明していくことが重要で、J1に昇格することで得られる経済効果が49億円にも上ることや、市民と子供たちに夢や希望を与えるというお金でははかれない効果もあり、そこに先行投資していると説明して理解を得ているとのことであります。また、松本市でも健康寿命延伸都市を実現するために、プロスポーツチームの存在が大きな役割を担っていることを市スポーツ推進計画や市総合計画の中で位置づけ、市でもPRしているとのことで、クラブと行政が連携することについて、市民の理解を得ていくことがいかに重要かを認識できたものと感じております。

最後に、(6)、ホームタウン自治体を広げることの重要性についてであります。今回行政視察を実施した松本市では、松本市を含む近隣の4市1町2村にホームタウン自治体を拡大し、自治体相互の情報交換やホームタウンデーの開催といった大きなイベントを連携しながら共同で展開しております。

先ほどの資料2でも多くの委員の皆さんからホームタウン自治体を拡大することについて意見をいただいております。

実際にホームタウンを拡大することは、クラブを支援する体制の充実強化やクラブとの連携事業を実施する上でも非常に大きな効果が期待できることが松本市の取り組みでも今回の視察で確認することができました。さらに、中核市となり、今後、連携中枢都市としてリーダーシップを発揮していくことがますます期待される本市において、ホームタウンの拡大推進は周辺自治体と連携を図るための一つのツールとしても非常に重要なポイントではないかと考えております。

以上、皆さんの意見開陳を整理したキーワードなどをもとに、今回の行政視察のまとめをさせていただきましたが、いかがでありますでしょうか。何かつけ加えることとか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(石原洋三郎委員長) 行政視察の結果やこれまでの調査をもとに、次回以降、実際に提言する項目などを整理していく作業に入ってまいりたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(石原洋三郎委員長) それでは、そのように進めさせていただきます。

次に、今後の調査の進め方についてを議題といたします。

資料4、経済民生常任委員会のスケジュール(案)をごらんください。今回の所管事務調査について、委員長報告までのスケジュール感をこちらの表でお示しさせていただきました。今回の委員会が

11回目に当たり、今後委員長報告のまとめに入っておりますが、報告完成までに4回から5回ほど委員会を開催したいと考えております。

まずは、このスケジュール感について、委員の皆様から何かございますでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(後藤善次委員) 12月下旬にやるのですか。

(石原洋三郎委員長) ええ。1度、12月下旬にはしたいなというところで、21日の午前中はいかがでしょうか。

(佐久間行夫委員) 午前だめなのだ、俺。

(黒沢 仁委員) 2時半からならいいよ、午後。

(石原洋三郎委員長) では、21日2時半でよろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(石原洋三郎委員長) では、12月21日金曜日の14時30分ということで。

あと、来年の手帳もあした皆さん持ってきていただければ。来年の分も調整させていただければと思います。

そのほか皆様から何かございますでしょうか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(石原洋三郎委員長) なければ、以上で経済民生常任委員会を終了いたします。

午後4時06分 散 会

経済民生常任委員長 石原 洋三郎